

6月定例岡山市議会に市当局がご提案になりました議案 65 件のうち 4 件の議案に対し、委員長報告に反対の立場で、日本共産党岡山市議団を代表して討論いたします。

1. まず、会計不適正処理についての償還金についてです。

甲第 129 号議案『平成 23 年度岡山市一般会計補正予算(第 1 号)について』の第 2 款第 20 項第 1 目「統計調査総務費」15 万円(P17)、同じく第 3 款第 1 項第 1 目「社会福祉総務費」49 万 1 千円(P19)及び甲第 131 号議案 平成 23 年度岡山市介護保険費特別会補正予算(第 1 号)についての第 20 款第 5 項第 3 目「償還金」10 万 4 千円(P59)の 3 件合計 74 万 5 千円です。一連の不適正な会計処理については、市民や国民の皆さんから預かっている税金の会計に計 3300 万円に及ぶ不適格な処理があったということです。業者を巻き込んだ見積書や納品書の偽装とも言える処理等、一般民間企業では到底考えられません。しかも多くの部局にまたがり、長年にわたり組織的に行われていたことが伺われます。新人議員としても非常に驚き、残念でありました。当局内で蔓延していたと思われる不適正な事務処理に対し、さらに市民のみなさんの税金を償還金とすることは、到底認められないのではないのでしょうか。

2. 工場の緑地面積基準を 20%から 10%に緩和する問題です。

甲第 135 号議案 岡山市工場立地法第 4 条の 2 第 1 項の規定に基づく地域準則を定める条例の制定についての議案です。

この緑地基準は、高度成長期の深刻な公害への反省の上に日本の企業が作り上げてきた公害・環境対策の水準で、世界に冠たるものがあるといわれています。今日の地球温暖化という世界的・地球的な問題の中で、日本の企業はこの伝統を受け継ぎ、先進国として、さらには ESD を推進する岡山市として、地球にやさしい環境づくりにしっかり貢献しなければならないのではないのでしょうか。工場の緑化がもたらす効能は、景観だけではなく従業員のリラックス効果、視力疲労の回復なども認められています。屋上緑化、壁面緑化でヒートアイランド現象対策、節電対策としても大きく注目されています。また、岡山市は水と緑の庭園都市づくりとして緑のボリュームアップ事業を展開し、大いに賛同するところでもあります。なぜ、逆行する規制緩和を行うのか理解できません。

この20%緑化の規制があるからこそ、現在の緑化率16%まで整備されてきたのだと思います。もともと達成できていない基準だと言われますが、努力してこられたはずです。さらにいえば、対象となる工場は、製造業、電気、ガス、熱供給業で、敷地が9000㎡以上または建築面積が3000㎡以上の工場で、いわゆる零細工場ではありません。企業責任を果たすことが出来るレベルの工場だと思います。全国の規制緩和の流れに歯止めをかけ、水と緑の庭園都市岡山市ではしっかり20%基準を残すべきです。

3. ファジアーノ練習場整備の予算2億1千万円について

甲第193号議案平成23年度岡山市一般会計補正予算(第2号)にいての議案です。

まず、私たちもファジアーノ岡山を応援する立場であることを表明したうえでいくつかの問題点に触れたいと思います。3点です。

1つは、国体までに作ると言われていた岡山市のスポーツ振興計画がまだ出来ておらず、市として何の位置づけもない段階で、一プロスポーツ団体に8億円という総額で練習場を整備するという点については、スポーツ振興の側面からの公平性や計画性が全く見えません。他のプロスポーツであるシーガルズ、天満屋陸上部についてどうかかわっているのか。ASPOの子どもたちの夢はどうなるのか。二日市グラウンドで行っている参加100チーム程あるアマチュア野球大会が今年で終わるけれど、何か使える制度はないのか。このような声があります。行政としてまず市民のスポーツ振興という方向性がしっかりあって初めてこそ、地元のプロチームをどう盛り上げていくのかが見えてくるはずですよ。

ちなみに、世界競技人口はサッカーよりバスケが2倍多く、日本の競技人口では、卓球、バトミントンの方が多いそうです。

2つは、岡山市としての収支計画がずさんなことです。財政難、財政難といわれている中、本来、まずは使える予算枠があり、予算が足りない部分については、市民や企業に協力を求める。これが筋ではないでしょうか。クラブハウスを作るのにあとどれくらい足りないからスポンサー集めや寄付集めをがんばろう！という方が、よっぽど盛り上がりも高まり、自分たちで支えているチームだという本当の意味での「誇り」が生まれるのではないのでしょうか。はじめから8億で整備します。という姿勢については、署名をされた市民の方々から

も疑問の声がいくつも届いています。今回市債という岡山市の借金を1億5800万増やして、2億1000万の予算が計上されていますが、補助金の1億数千万円をのぞき、今後の4億強の収入の見通しは全く不明瞭なままです。岡山県への働きかけ、経済界への働きかけ、市民の皆さんへの働きかけが具体的に見えない中で、認めることはできないのではないのでしょうか。

また、他都市の状況を確認しましたが、北九州市や平塚市のように既存の施設を整備し直したところ、新しく作るとしても段階的に整備したところが多いようです。さらに、経済効果が大きいスポーツなのであれば、それこそしっかりと民間活力を引き出すべきではないのでしょうか。

3つは、なぜそんなに急ぐのかということです。トトや日本サッカー協会の補助金申請は、測量設計だけでも申請できるのではないのでしょうか。土地造成費は、測量試験を終了した後の9月定例議会でも良かったのではないかと思います。それまでにしっかりとスポーツ振興計画を作ることも出来ます。

よって、現段階で賛成することができません。
議員の皆様のご賛同をお願いして討論を終わります。